

第 4 回西京区・洛西地域の新たな活性化懇談会 グループワークのまとめ

1、【定住】に関わる西京区・洛西地域の課題・特徴と必要な取り組みの視点

○ 西京区内の各地区の多様性と魅力を踏まえる

西京区の特徴は多様な地域の集まりであり、平均化して捉えるべきものではない。定住や交流を促進するためには、その多様な地域の特徴をふまえる必要がある。

○ 少子高齢化・若年層の流出に対応した、住みやすい・住みたくなる住環境の整備

特に洛西では、20～40 代の若い世代・子育て世代が出て行っており、若年層が減少してきている。また、ニュータウンの高層階に住む高齢者が外出せず孤立していく人もおり、大枝でも高齢者の移動等の問題もでてきている。高齢者も街中へ引越していくなどの状況も出てきている。

他地域では、老朽家屋やニュータウンの空室のリノベーションで魅力的な住宅を提供したり、学校などの教育環境が充実したりすることで、若い世代や子育て世代が集まってくる可能性を高める成果も見られる。ニュータウン内でのバリアフリー化や住み替えなどを容易にするなど、高齢者に住みやすい住環境を整えていく必要がある。

また、最近では賃貸住宅の経営の視点から、「大家」が魅力的な住まい方の提案をすることで、まちの魅力発信や定住等につながっている例もあり、参考にすべきだ。

○ 世代に関係なく希薄化している地域との関係を深めていく

若い共働き夫婦や子育て世代の転入も地域によっては出てきているが、自治会に入らないなど、まちづくりへの関心や地域への愛着が薄いと感じる。その現象は世代関係なく地域との関係が希薄化しているように感じる。

世代に関係なく、住民自身がまず楽しく過ごすことができ、まちに誇りをもてるのが定住につながるはずである。例えば、多世代で交流できる場や誰にとってもこちよい居場所をコミュニティビジネスで取り組んだり、地域のイベントに住民がもっと参加できるようにしたりすることで、世代間交流を促してはどうか。

○ 「住む」だけでなく、「働ける」魅力のあるまちに

職住近接のイメージが強い京都では住む場所と働く場所との関係性が重視されると感じる。定住のためには、単に寝にかえるだけのまちではなく、特に若い世代が働ける場所、地域内でも外から稼げる産業をつくる必要がある。例えば、農業ビジネスや観光など「働ける魅力」から定住につなげることもできるのではないか。

○ 安心して子育てと仕事を両立できる環境を整えていく

若い世代の定住には、安心して子どもを育てられる環境が必要だが、安心して子どもが遊べる場所が減ってきており、夜の公園など治安面も不安である。

共働き世帯には職場出て行くにはバスを使う必要があるなど、遠い印象があり、また病時保育や一時保育などがまだ不十分である。安心して子育てしながら働けるまちにするために、例えば、身

近な場所の空室を利用した保育サービスの充実や買い物支援、多世代交流により子育てを近所のお年寄りが助けてくれるような関係づくり、ひとり親世帯の子どもの食事提供など充実させてはどうか。コミュニティビジネスや市民活動として活性化するような支援策も必要ではないか。

○ **生活する上での西京区内の交通問題を客観的に捉えなおす**

洛西の交通環境はバスを中心に便利にはなっている一方で、西京区全体で見た場合の客観的な評価が必要だ。例えば、大枝など地域によってはバスが少なく不便であり、運転できない高齢者の買い物など生活上不便な状況が出てきている。また、行政区にとらわれず、生活利便性や観光の視点から、向日市など他都市ともつながる交通網の検討も必要ではないか。

○ **地域と大学との接点と交流が住むまちの魅力を高める**

京都大学と地域との交流があまりなく、芸大での地域向けの取り組みの情報もあまり知られていない。芸大移転後の跡地活用についても、より具体的に考えていくべきだ。

○ **西京区内の各地域の多様な魅力をふまえたPRを内外に強化していく**

定住を促進するためには、教育環境や住環境、緑が多いこと、通勤利便性などすでに魅力的で住みやすい地域であり、そのことを内外にもっと伝えていくべきだ。

2、【交流】に関わる西京区・洛西地域の課題・特徴と必要な取り組みの視点

【住民同士・地域内交流】

○ **まちの魅力を住民が再発見する**

区民が住民の活動や芸大の活動などをあまり知らない現状がある。また例えば、大原野は住民よりも周辺から注目されたりしている。住民がまちに関心を高められるようにするためにも、住民がまず「よさ」を見つけることが重要だ。

○ **西京区内の多様な地域が交流することで魅力を高める**

西京区内で異なる特性をもつ地域が交流することで、住民同士のつながりが強くなり、魅力も高まるはずだ。そのために地域間で交流できるきっかけになるイベントや場を用意してはどうか。例えば、大原野の野菜や高齢者のケアを通じて人の交流が始まっている。また、交流の触媒としての学生の力を活かすために学生の集まる場所をつくってはどうか。

○ **イベントは持続可能なものを大切にしていく**

例えば、地蔵盆は2人でも100人でも人数に関わらず開催ができ、お坊さんが来るという緩やかな強制力で、大掛かりなことをしなくても成立する。他にも盆踊りのように伝統的行事は複合的な交流の要素がある。このような地域の持続性に寄与するようなことを掘り起こし、あまりがんばらなくても持続できるイベントにしていくことが重要だ。

【地域外交流】

○ 観光・交流に必要な環境を整える

縦貫道の開通で外からのアクセスが便利になり観光客も増えたと聞かすが、通過点になる可能性がある。ニュータウンは商業施設もあり、観光・交流拠点に合うのではないかと。人が流れていくだけでなく、ダムのような滞留させる視点が必要だ。

例えば、宿泊機能としてはエミナース（40室）しかなく不足している。地元食材とレシピ提案の自炊型宿泊サービスを公的住宅の空室活用で実現したりするなど、今ある資源を使う方法もある。そのためにも、URには情報を積極的に出してもらいたい。

○ 観光・交流を誘発する魅力的な交通・乗り物

生活上の交通便利性だけでなく、観光の面につながる魅力的な交通・乗り物を考えてはどうか。例えば、乗ってみたいと思える観光的な乗り物、ユニークな乗り物を企画し、観光産業として雇用にもつなげる視点も必要である。

西京区内だけでなく、周辺自治体ふくめた、交通網の視点も必要である。

○ 区内をゆっくり回遊してもらおうしかけ

最近では長期滞在の外国人観光客も多く、またディープな、マニアックなところに行きたいと考えている人が多い。

観光地がたくさんある西京区であるが、大型バスで回るということには向いていない。西京区内の魅力を気付いてもらえるよう、新しい大人の遠足のような企画や、ウォーキングやサイクリングなど、西京区内をゆっくりとまわってもらえる移動手段を拠点になりえるニュータウン内や駅、またエミナースなどに整備してはどうか。また、その中で西京区の暮らしをみてもらうしかけ、例えばニュータウンのリノベーションした住居を見学するなど企画してはどうか。

○ 区全体、地域ぐるみで活性化と観光振興に取り組む

西京区内の多様な地域の特性を活かした魅力の発信（PR）や観光振興を西京区全体で行っていくことが重要。

また、農業振興による観光、地産地消をテーマに地元素材を活かしたレストランや特産物を活かした交流（たけのこほり体験→放置竹林の問題へのアプローチ）など、まちづくりへの利益にもつなげていく視点が必要だ。

そのためには、西京区内ならではの事業者、住民の活動、大学等をつないで、地域ぐるみで取り組んでいける状況をつくっていくコーディネーターが必要だ。

○ 住民の活動内外の交流を促進

住民が地域内で取り組んでいることを外に発信することで、地域の魅力を合わせて知ってもらう視点が必要だ。例えば、区内で住民が取り組んでいることを結びつけて発信することで観光ルートになるかもしれない。子ども向けの自由研究イベントを企画することで親御さんもついてきてくれるかもしれない。

3、ビジョンを検討する上で必要な取り組みの視点

他の学区のことなど、このメンバーだけでは分からないこともある。課題の原因分析等もふまえながら、例えばシナリオアプローチのように、多様な主体が「自分ごと」として捉えた「私」のシナリオをふまえた将来に選択肢と可能性を残すビジョンの作り方をしていくなど、より多様な区民の意見を取り入れながら、検討していく必要がある。